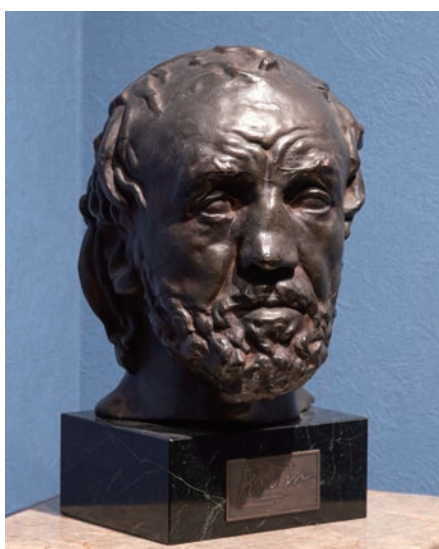


ハルナグループのメセナ活動

地域の皆さまの身近な存在として

豊かな生活文化の発展に寄与するため、2020年に創業者の青木清志が代表となり、一般財団法人榛名美術を設立いたしました。創業の地・群馬県高崎市に、榛名美術記念公園「絵画の館」「彫刻の杜」を設立し、文化貢献活動に取り組んでいます。また、こうした活動を通じて、次代を担う方々の育成も目指しています。



〈鼻のつぶれた男〉
オーギュスト・ロダン／ブロンズ



〈麦わら帽子のマリアテレサ〉
パブロ・ピカソ／リトグラフ



館長 青木清志

2020年11月16日にオープンしました「榛名美術記念公園 絵画の館・彫刻の杜」では、2021年、2022年に企画展を開催してまいりました。多くの方々にご来園くださり、芸術をご堪能されました。

「絵画の館」では、常時約70点の作品が展示されています。「彫刻の杜」では、〈ゼウス〉を代表とする〈ギリシアオリュムポスの神々〉シリーズの彫刻作品が鎮座しています。

古今東西、様々な美術作品が、季節ごとに豊かな表情を見せる榛名の自然と相まって、ますます彩っております。皆様のご来園、心よりお待ちしております。



名 称	榛名美術記念公園「絵画の館」「彫刻の杜」
所在地	群馬県高崎市下室田町 2700-1



●高崎駅・群馬八幡駅より
 国道17号～国道406号～上里見信号右折～下村信号直進
 (お車で約30分)

ハルナデジタル・トランスフォーメーション 【HdX】の取り組み

社会や産業構造が大きく変わろうとするなか、企業の経営課題は一層複雑化・高度化し、加えて新型コロナウイルス（COVID-19）により、新たな消費者行動や働き方、価値観が定着するニューノーマルの時代においては、デジタルを手段とした変革が急務となりました。

当社グループは 2021 年 5 月に「HdX プロジェクト」として取り組みをスタートさせました。外部のコンサルティング会社にも参画していただき、まずはロードマップを策定し、現在は「HdX1.0」の構築と「HdX2.0」に向けた準備を進めているところです。

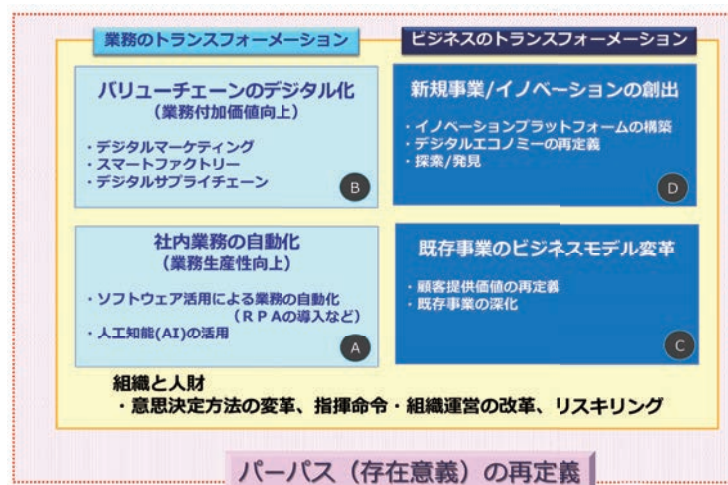
DX 化は単なるデジタル化ではありません。デジタルはあくまでも手段であり、デジタル「で」ビジネスや組織の活動を変革していくことを念頭に、顧客を起点とした価値を深耕し、真の付加価値を生み出してまいります。

1.HdX 全体像

中長期的に「企業のサステナビリティ」（企業の稼ぐ力の持続性）である経済的価値と「社会のサステナビリティ」（社会課題の解決と持続可能性）である社会的価値の両輪を創出できる新たなビジネスモデルの確立を目指しております。

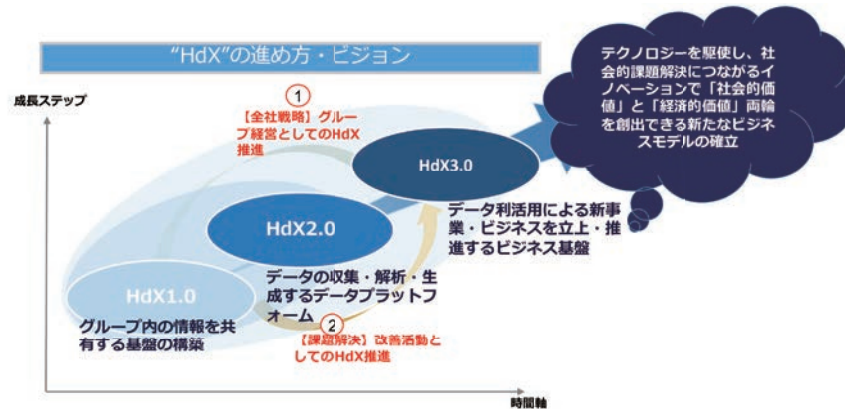


HdX の根底はパーパスに基づく「組織」と「人財」です。現在もこれからも主役は「人財」であり、その人財がデジタルを手段としながら業務のトランスフォーメーションとビジネスのトランスフォーメーションの両輪での競争優位性を確立してまいります。



2. 進め方とビジョン

HdX1.0 から HdX3.0 までのステップで推進してまいります。



■ HdX1.0

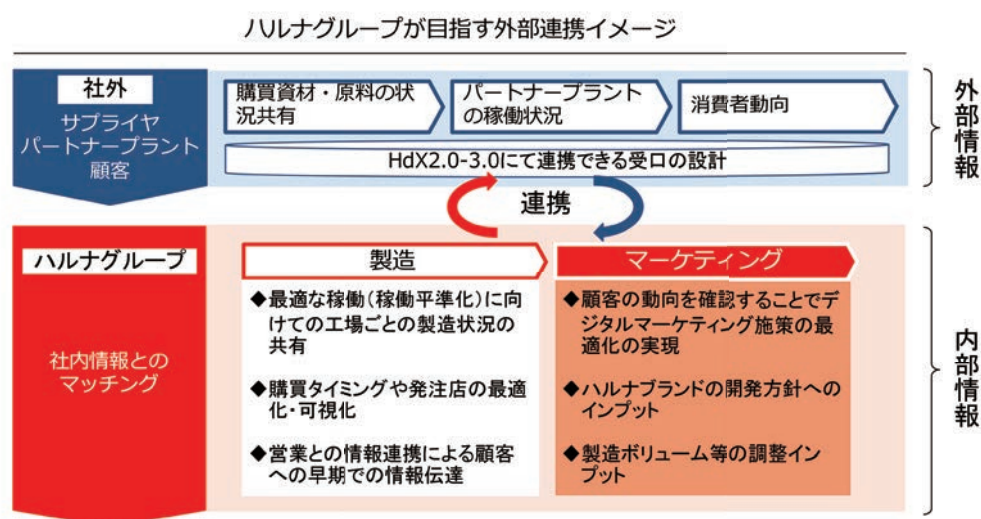
HdX1.0 では各部門が作成している帳票・資料を**ポータルで一元管理**し、他部門担当者がプラットフォームを介してスムーズに情報を獲得することができる仕組みの構築を目指します。

■ HdX2.0

周辺システム等との連携を実現することで社内外のデータを収集し、**解析、アウトプット**を提供するためのデータ基盤の構築を目指します。

■ HdX3.0

データを活用した新規事業・SDGsなどの社会活動を実現するためのデータ基盤を構築し、**デジタルマーケティング・スマートファクトリー・スマートロジスティクス**を実現し、**サプライチェーン全体がデジタル**でつながる世界を目指します。また、社会環境変化に柔軟に対応できる**働き方**の実現も併せて目指します。



ハルナグループ コーポレート・ガバナンス

ハルナグループは理念を実践することにより、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指しています。その実現のため、コーポレート・ガバナンスの充実を経営の最優先課題の1つと位置付け、グループ経営の強化、サステナビリティ経営の推進など社会との信頼関係の強化、ステークホルダーとのエンゲージメントの推進など企業の社会性・透明性の向上に積極的に取り組んでおります。また、取締役会において長期を見据えたメガトレンドの議論を進めることで、中長期の事業環境の変化に対する先見性を高め、あるべき事業ポートフォリオの実現を推進するなど、積極果断な経営を推進しています。ハルナグループは、コーポレート・ガバナンスの充実を推進するため、取締役会の実効性の持続的な向上に取り組めます。取締役会の定期的な実効性評価を行い、さらなる実効性向上のために対応すべき課題を認識し、改善していくことで、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図っています。

当社のコーポレートガバナンスに関して

企業にとってのコーポレートガバナンスは、不祥事や違法行為を防止することのみならず、激変する経営環境への即応や、長期的視点に立って企業価値を高めていくための施策提言が適切になされるよう、制定されるものであろう。地球環境を含めて、全てのステークホルダーにとって、企業価値が持続的に向上していく観点が重要となる。

ハルナグループにおいても、経営上の重要事項は経営執行会議に即時報告・対応指示されるとともに、毎月開催される取締役会を通じて、経営上の重要事項の報告および適切な経営監督体制が保持されている。また、監査役による監査の実効性も確保されているとともに、四半期報告の開示・監査法人によるレビューなど、法的規制以上の財務検証を行っている。

今後は、激変する経営環境において、時代のニーズに適した事業ポートフォリオ構築、グローバル展開のための人材育成と投資、PETボトルを主製品とする事業者としての環境への配慮対応など経営が挑むべき課題は多い中、全てのステークホルダーにとって、経営が適切に執行されるように、コーポレートガバナンスの役割はますます重要なものとなる。



小出 信介

ハルナビアレッジ株式会社
非常勤取締役
小出公認会計士・税理士事務所代表

当社の監査役体制について

近年の企業不祥事を見るにつけ、改めてガバナンスの重要性について認識を新たにするところです。規模が大きいため、世界的な企業だから、機関設計を監査等委員会設置会社や指名委員会等設置会社等に変えたから、といった見かけ上の要件は、不祥事と一線を画すのにあまり大きな役割を果たしていないことも分かります。形ではなく中身が重要ということだと思います。

そうした観点では、当社は昨年監査役事務局を新設し、事務局長並びにスタッフを配置し、会社を挙げて監査役、並びに監査業務をサポートする体制を強化しました。この体制により、昨年はコロナの状況には十分配慮しながらも、海外を除く全事業場に対する監査役ヒアリング（往査）を実施することができました。また、ヒアリングは単なるガバナンスチェックに止まらず、相互に有意義なコミュニケーションとなり、今後より健全な社風を醸成していく上でも有益なものになったと思います。

当社は社会との信頼、ステークホルダーとのエンゲージメントを大切にしながら、中長期的に企業価値を高め、同時に社会的責任を果たしてまいりたいと考えています。監査役としてもその一翼を担い、しっかり貢献してまいりたいと考えています。



尾崎 聖治

ハルナビアレッジ株式会社 社外監査役
元サッポロホールディングス株式会社
常勤監査役
応用地質株式会社 社外取締役

社外取締役からのご意見

ウクライナへのロシアの軍事侵攻がおり、原油や色々な物資が高騰しています。また、サプライチェーンが地球規模で構築され、1か所でも滞ると製品ができないという事態が頻発しています。産業によっては工場の国内回帰の動きもありますが、川上の原材料調達や川下の販売を考えると、ほとんどの産業は世界と密につながっています。弊社が開発、生産している製品も同様であり、今後も世界情勢の影響を強く受けると考えられます。

このような混沌とした状況で一番に求められるのは「イノベーション」です。イノベーションには、既存概念を超える新たな価値提案の「破壊的イノベーション」と、顧客が求める価値の向上提案の「持続的イノベーション」があります。両イノベーションとも保有している技術や人材などの経営資源をいかに高度化し組み替えていくか、経営に強く求められる点は共通です。

ハルナグループは小型 PET 飲料に果敢に取り組み、礎を築いてきました。今後も PET 容器の可能性をさらに追求するとともに、消費者に対し新たな飲用シーンの提案という価値創造へのチャレンジも求められます。これら「イノベーション」を実現していくためには、ステークホルダーやサプライヤー、取引先の流通企業との強い連携が必須であり、経営陣がオープンマインドを持ち経営にあたっていくことが今まで以上に求められます。



ピーター・トーマス

ハルナビバレッジ株式会社 社外取締役
NVMAD 創業者兼代表取締役社長
Daymon Worldwide KK, 元 President
& CEO (Joint-venture with Aeon Co. Ltd.)

This year Haruna initiated an internal campaign to develop a tagline what would encapsulate the company's mission. 「潤う幸せを世界に、ハルナグループ」 was chosen and then later I collaborated with the CEO, Mr. Aoki to create an English version of this.

As we thought about this we reflected on Haruna's management philosophies of customer-orientation, quality based on customer evaluation, endeavoring to create a manufacturing platform that exceeds customer expectations and of course the importance of personal responsibility and joy of delivering service and products that delight our customers.

顧客志向を経営の核として
顧客評価に値する品質とは何かを問い
顧客思考を超える製造とは何かを考え
顧客歓喜の果実を己の収穫とする

We eventually decided on, "Giving the joy of refreshment to the World, Haruna Group" because we felt that it captured both the meaning and spirit of the original Japanese as well as the core of the company's management philosophies. It's no small feat to consistently deliver year over year this level of business performance and customer satisfaction. I'm honored to be a member of the Haruna Group's board of directors and look forward to working with the company and management to realize the future potential of the company.



梅野 匡俊

ハルナビバレッジ株式会社 社外取締役
元キリンビール横浜支社長、原料資材部長
元横浜国立大学国際社会科学研究院、
成長戦略研究センター客員教授
新潟県立大学 産官学金連携担当特任教授

ハルナグループは、会社のミッションを表すキャッチコピー企画を全社で実施し、「潤う幸せを世界に、ハルナグループ」が選ばれました。

その後、私は青木 CEO と英語版を検討いたしました。

英語版キャッチコピーを選定する上で重要視したことは、ハルナグループのマネジメントである経営理念です。

最終的に日本語版のキャッチコピーの想いと意味だけではなく、会社の方針も反映し "Giving the joy of refreshment to the World, Haruna Group" に決定しました。

目標達成と、顧客満足度を毎年一貫として満たすのは簡単なことではありません。

今後も将来性あるハルナグループに取締役として会社の経営に携わり、働くことが楽しみです。

ESG の経営について

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) について、ワクチン普及による収束への期待が高まっているものの、変異ウイルスによる感染拡大などによる生産制約や物流の混乱によるサプライチェーンの停滞が長期化・深刻化するリスクは残っています。感染収束時に一気に需要が持ち直したことにより、需給バランスが崩れ資源価格が大幅に高騰したところに、ウクライナ情勢の緊迫化が拍車をかけ急激に価格が高騰しました。このように経済情勢に重大な影響を及ぼす事象の発生が待ったなしに続いており、今後も不透明な状況が続くことが想定されます。また、デジタル化による社会構造や消費者意識の変化、地球温暖化やプラスチックなどの環境問題は業界の垣根を越えた連携や技術革新が欠かせません。このような構造変化において、当社グループも様々な取引先との連携と協力をさらに強化し、新たな価値を創り出すオープンイノベーションを推進していくとともに、ESG (環境 : Environment、社会 : Social、企業統治 : Governance) を通じて LIFE (生命・生活) をどう守ることができるか。これから大きく変容する社会の中で社会における存在意義 (パーパス) を再認識し、短期・中期・長期のそれぞれの視点で取り組み、皆様に信頼される企業グループを目指してまいります。



ハルナビバレッジ株式会社
専務取締役
栗原 健一